

定住対策が必要な「理由」

止まらない人口減少

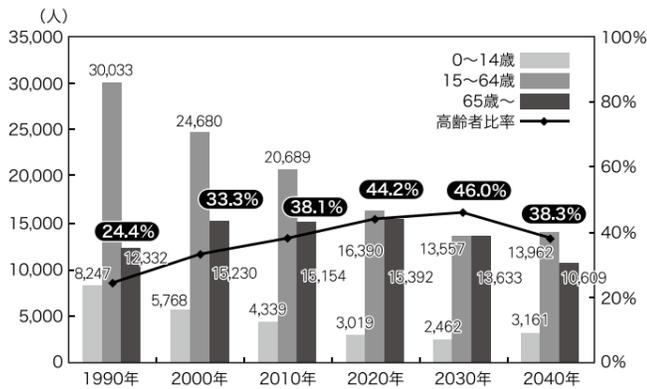
本市の人口は、合併した平成17年3月末時点で4万3149人だった。しかし、平成24年3月末では3万9221人と4万人を下回った。死亡より出生が少なく（自然動態）、転入よりも転出が多い（社会動態）という傾向が続いている。

国立社会保障・人口問題研究所が予測する本市の人口は、平成32年（2020年）には人口が3万4801人、生産年齢人口（15～64歳）1万6390人に対し、高齢者人口（65歳以上）が1万5392人で、高齢者比率が44.2%まで上昇。2人に1人が高齢者になる。これは全国平均よりも50年も早い。75歳以上の高齢者人口は、今後20年あまり変わらないと予測され、市税収入の減少、高齢者福祉の担い手不足、社会保障費の増加は避けられない。特に生産年齢人口や年少人口（0～14歳）の減少は地域の経済や活力、市民生活などに直接的な影響を及ぼすため、定人口を維持・確保することが極めて重要と言える。

定住環境の向上が不可欠

そのためには、庄原に住んでもらわなければならぬ。それには「庄原で暮ら

（資料1）庄原市人口予測



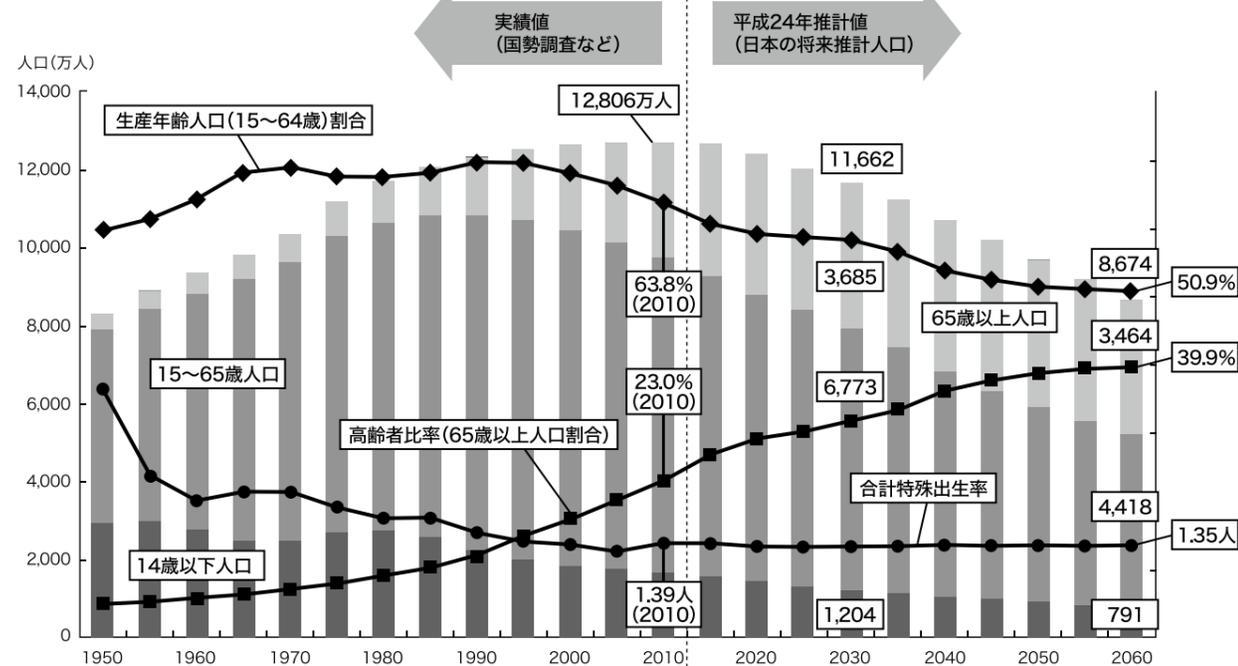
1990年～2010年：国勢調査・2020年～：国立社会保障・人口問題研究所

たい」と思える環境があるかどうか。安心して暮らせることは言うまでもなく、働ける場所、住める場所がなくてはならない。そうした都市基盤や生活環境、保健や福祉、医療や教育など、すべての分野で「安心・安全」な環境が整っていることが定住に結びつく要因となる。

市はこうした現状を克服し、「活力ある庄原市」を築くために、「地域産業」暮らしの安心」にぎわいと活力」を柱とする「庄原いちばんづくり」に取り組む。目指すは定住環境の向上である。

日本の人口の推移

日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えている。平成24年（2012年）には総人口が9000万人を割り込み、高齢化は40%近い水準になると推計されている。



（出所）総務省「国勢調査」および「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）厚生労働省「人口動態統計」

特集

I would like to live in Shobara all the time.

ずっと庄原で暮らしたいから

～庄原に住むという選択～

庄原市の人口が減り続けています。今の姿は、50年先の日本を映し出していると言われ、一向にやまない少子化・高齢化の波は、ここに住む私たちを大いに不安にさせています。

しかし、そんな中であって、庄原市を選んで住む人も多くいます。庄原市に住み続ける人がいます。庄原市に帰ってくる人がいます。そこには確かな理由があります。

今月は、定住について考えてみたいと思います。



庄原を選んだ「理由」

「庄原が好き」、「庄原」が好き。そんな気持ちをストレートに表現する人たちがいる。庄原を選び、庄原を舞台に活躍する人たちのレポートする。

庄原びと SHOBARA PEOPLE その1

「この地域ならではの温かさに感動した 比和自治振興区の事務局員として 地域振興にかかわる」

● **比和 美枝さん** (34歳・比和町)
家族構成 夫強次さん6歳と4歳の男の子



事務局員として働く美枝さん

岡 山県玉野市出身の美枝さんが結婚を機に庄原市へ移住したのが平成18年6月のこと。夫の強次さんは比和町出身。OJとして岡山市で働いていた美枝さんは、同じ職場にいた本市出身の人から「すごい田舎よ」と聞かされていた。「実際に衝撃を受けた」と当時を振り返る。最初は東本町でアパート住まいだったが、夫の仕事の都合もあり一昨年11月に比和に移住した。

不安ばかりだったが、間もなく比和自治振興区の事務局員募集を知り、周囲の勧めもあって真っ先に応募した。事務局員に採用されたことで多くの人を知り、声をかけられることが増えた。「とにかく不安でしたが、皆さん温かくて、布団を干して雨が降ってきたら『雨が降り始めたよ』と声をかけてくださるし、子どもたちを孫のようにかわいがってくださいます。手助けしてもらえ、気の合う人もいて、毎日楽しく過ごせています」と笑顔で語る。

今の仕事に就いて見えてきたことがある。「最初は『何でそんなことまで私の行動を知ってるの?』というところがあり、少し抵抗がありました。実はそれが高齢者の方の見守りなどにつながっているんですね。この地域ならではの温かさであり、それが安心につながっているんだと納得しました。今では比和に住んで本当に良かったと思っています。この町が大好きです」とすっかり地域に魅せられている。

庄原びと SHOBARA PEOPLE その2

子どもを自然の中で思い切り遊ばせたい 実家のそばに家を立てると決めた

● **比和 信吾さん** (28歳・悠吾くん10カ月)

比 和 中学校の同級生だった信吾さんと愛さんは、平成22年に結婚。三城市で2年半暮らしたアパートから、実家のある比和にUターンする準備を進めている。

信吾さんが比和に帰ると決めたのは、父親がもらしたひと言だった。信吾さんは3人兄妹の末っ子。誰も帰りそうにない雰囲気を感じていた父親が、あるとき酒に酔った勢いでこうつぶやいたと言う。「2度と言わんけど、今だけ言うけど、帰って来てほしい」。正直、親の思いを聞いたのが大きかった。普段は『おまえの好きにしたらいい』という感じを出しつつ、ほろつと言われましたから。それが頭の片隅にいつもあったと信吾さん。色々検討した中で、土地の関係が整ったことや消費税増税の動向を見据えた今回のタイミングで、比和に帰ると決意。



すム待見んか完 接一心をさ末にみ 隣ホを顔岡月未にみ にイ成笑平。8月未に見込 家ママ完にる家。9月9日成 実るのちせ一ら成

その点も安心していきます。祖父母もまだ元気ですし、自分たちが帰り一緒にいれば刺激にもなるのでは」と笑顔で語る。「川で魚を捕るのが好きなので、子どもと一緒にいたり、花火をしたり、今から楽しみ。もちろん少しずつ農業も手伝っていきますよ」と夢を膨らませる平岡さん一家。小さな集落に新たな風が吹き込むのもうすぐそこだ。

移住者が住宅を新築・購入・改修する際に、新築・購入は費用の10% (上限100万円)、改修は費用の20% (上限50万円) を補助。購入と改修は併用可。子育て世帯には最大で10万円を加算。実家へのUターンを想定し、改修は2親等以内の持ち家でも対象にできる。 岡 自治振興課 ☎0824-73-1257

庄原市転入定住者 住宅取得および 改修補助金

庄原びと SHOBARA PEOPLE その3

4人の子どものために大学に行かせてやりたい トマト栽培に取り組み

● **藤原 友樹さん** (30歳・高野町)
家族構成 妻理恵さん 1女3男

三 次の工務店で大工として働いていた友樹さんは昨年春、実家の転作田を活用し、トマト栽培を始めた。「4人の子どもの全員大学に行かせてやりたい。だけど大工だけでは難しいという思いがあった」ときっかけを話す。もともと転作田は、祖父が牧草や飼料用米を作っていたが、もともと土地を有効活用したいと栽培品目を検討していたところ、参加した地元青年会の会合でトマト栽培を勧められた。青年会のメンバーは20〜40代までの若い世代が多く、トマトを栽培している先輩も多くいることから、トマト栽培を決意。家族の後押しも決めた手になった。

「やるからには絶対に成功させたい」と、市の助成制度を活用して雨よけハウス10棟を整備し、約6700本の苗を定植。未経験でいきなり10棟から始めることに、「さすがに心配された」と苦笑いを浮かべる。しかし、「何とかなる」と持ち前のポジティブさと、ひた向きの努力で周囲を驚かせた。1年間乗り切れたのは、「近くにメンバーがいることが何より心強かった。



集出荷場での作業の様子

庄原びと SHOBARA PEOPLE その4

生産管理を中心的に担い 大佐村を大きくするのが夢 農事組合法人大佐村に正職員として従事

● **鹿川 正悟さん** (30歳・西城町)
家族構成 妻晴美さん 4歳と2歳の男の子

愛 媛県大洲市出身の正悟さんは、西城町出身の晴美さんと出会い5年前に結婚。これを機に晴美さんの実家のある西城町に婿養子として移り住んだ。移住後は三次や庄原市内の民間会社に勤務していたが、昨年の秋、職員を求めている農事組合法人大佐村から声をかけられたことから、少しずつ作業を手伝い始めた。

(農)大佐村は昨年11月に雨よけハウスを8棟整備し、ネギの栽培に着手。今年4月から本格的に生産出荷を始めた。正悟さんは正職員としてハウスや集出荷場の生産管理を任せられ、プレッシャーを感じながらもメンバーとともに充実した日々を送っている。



「ヒバゴンネギは味がいいと市場からも評価をいただいています。ネギ作りは気候に左右されるので難しいですが、いいネギができることやほりうれいすね」。

知らないことが多く不安が大きかったという正悟さんだが「地域の皆さんが優しく、いつも気にかけていただいているので、今はとても居心地が良いです。地域からもよく来てくれたと言われ喜びを感じます」と笑顔ののぞかせる。「今は、皆さん

庄原びと SHOBARA PEOPLE その5

子育てしながらママが楽しめるイベントをつくりたい 庄原市小児医療を考えるひだまりの会の代表として活躍する

● 森岡早苗さん(33歳・川手町) 家族構成 夫伸也さん、5歳と2歳の男の子、両親、祖母

森岡 岡さん夫妻が庄原に移住したのは4年半ほど前。リーマンショックが起こり夫伸也さんの仕事にも影響が及んでいた頃だった。結婚当初は三次市に住んでいたが、このとき長男の恭平くんはまだ5カ月。「この状態が続くと怖い。すぐに働ける状況でもない。それならいざ帰る夫の実家に甘えさせてもらおう」と、夫の実家で暮らし始めた。「ちょうどその頃から長男に手がかかることが増えてきて、育児ストレスでつらい状態になった」と早苗さん。しかし、市が設置する子育て

支援センターの存在を知り、状況が変わった。「一人目の子育てはとにかく不安でしたが、気の合う人が見つかり、会話を通して救いにもなり励みにもなりました」と打ち明ける。子育て支援センターでは、似た境遇のお母さんが多く友人も増え、子育てに関するいろんな話を聞く機会も増えた。そうした中、本市の小児医療が危ない状態を知り、「何とかしたい」という子育て中のお母さんが集まり平成21年10月、「小児医療を考えるひだまりの会」を発足。3人いる代表の中の1人になった。多くの市民に小児科の現状を知ってもらい、勤務医師の負担が少しでも軽減するよう、「病気の知識を得てもらい、上手に受診してもらいたい」と小さな子どもを持つお母さん向けに学習会を開催している。



篤史くん(2歳)に絵本を読み聞かせる早苗さん

また、子どもを遊ばせながら母親が楽しめる「庄原空市」という催しを、有志の協力を得て開催。予想以上の来場者になり手応えをつかんだ。「子育て



小児医療学習会



進行を務める森岡さん

てを楽しめている自分がいてできたこと。それは子育て支援センターのおかげです。そこでめぐり合った友人のおかげです。今秋第2回目の空市を開催する予定。これからも子育てライフを楽しみたい。

庄原びと SHOBARA PEOPLE その6

いろいろな人が集える場所を作りたい 旧小学校を改修しカフェを営む

● 手島亜希さん(38歳・総領町) 家族構成 夫秀作さん、7歳の男の子と3歳の女の子

総領 領町黒目で「まなびやCafe」を営んでいる手島亜希さん。元黒目小学校を改修した手作りのカフェは、木造建築の特徴をうまく生かし、訪れた人に安らぎの時間と空間を提供している。

岡山県倉敷市出身の亜希さんは大阪市出身の秀作さんと大阪で知り合い結婚。芸術家の2人は、結婚前に作品を制作できる場所を探していたという。秀作さんが元黒目小学校を気に入り購入。亜希さんも「ここだったら何か楽しめそう」と魅力を感じた。平成11年に秀作さ

んが住み始め、翌年に亜希さんも移住。住居とアトリエを兼ねたこの場所で、改修を続けながら作品を作り、大阪で個展を開くなどしていた。しかし、ある頃から絵を描くよりも、野菜を作る、草刈りするといった暮らしそのものが楽しくなってきた。

元小学校ということで、ゆかりの人が訪れることも多かったこの場所をもう少し気軽に集まれる場所にしたと、2人目の子どもが保育所に行き始めたのを機にカフェをオープン。「これで生計を立てているわけではないので週3日だけ営業し、土日は家族の時間をできるだけ持たせたい」と、自分に合ったペースで営業を続けている。空いた時間には、子育て支援センターで仲良くなったメンバーで楽しめることを企画するなど、交流の輪も広がっている。

総領に移住して13年。「移動手段は車しかなく何をすることも遠いけど、豊かな自然や色々な生き物に囲まれ、いつも新たな発見があり楽しい」と、生活に不便さを感じながらも、それ以上の魅力を感じている。

「将来は、特技を持っている人がそれを生かせる教室などを開き、みんなが集える場所になりたい。絵画教室もできたらいいですね」と笑顔で語る亜希さん。その表情は晴れやかだ。



校舎を生かしたカフェ。ゆったりとした至福の時間を過ごせる。水曜日がランチとカフェの日、木・金曜日がカフェの日。12~2月は冬季休業。



【庄原空市】

森岡早苗さん、手島亜希さんら5人の母親らが中心に開催する催し。子どもが遊べるコーナーが設けられ、母親が買い物やエステ体験などを楽しむことができるとあって、多くの人にぎわった。



【子育て支援センター】

子育て家庭や地域の皆さんが気軽に集い交流できる場で、子育てに関する相談・子育て情報の提供・子育て家庭の友だち作りや交流の場の提供、子育てサークルの活動支援などを行っている。

☎ 女性児童課 ☎0824-73-0051



空き家を活用し定住と地域活性化につなげたい
地域をあげて空き家対策に取り組み

● 口和自治振興区

年々増加している空き家は、防災・防犯上良くない影響を及ぼし、景観を損ねるといった問題点が指摘されている。口和自治振興区では、こうした空き家を何とかしたいと、いち早く空き家対策に取り組んできた。

口和地域には約800戸の家がある。だがそれ以外に100戸余りの空き家が点在しているという。「増えている空き家を活用し、定住に結びつけることができなから、そんな思いから、同振興区では、空き家対策の先進的な取り組みをしている島根県江津市を何度も訪れ、空き家の取り扱いのノウハウを学び、振興区活動に取り入れていた。昨年からは、地域マネージャーを空き家対策の担当者に位置付け、空き家情報の確認・収集、市の空き家バンクと連携した定住希望者の相談やサポートなどに取り組み。その成果が少しずつ形として見えてきた。2年間で8世帯が口和に移住し、受け入れた地域に動きが出てきたという。

区長の山岡芳晴さんは「地域マネージャーがかかわったものだけでなく、地域が世話をして定住に結びついていることが大きい。振興区の活動が自治会へも伝わり、住民も関心が高いのだと思う」と手ごたえを口にする。

さらに次の展開として、高齢者世帯の

身内の方で町外に出ている方に、一口5000円で応援登録してもらおう制度を導入。この登録情報によって「空き家になった際に対応しやすくなる」ことが期待される。また、社会福祉協議会と一緒に進んでいる見守りネットワークと連携し情報を共有することで、空き家になる可能性があるところを早めに登録してもらおうような取り組みも検討している。

しかし、空き家を取り扱うには、法律的な部分や専門性の不足から、振興区だけで取り組むには限界も感じている。橋川豊事務局長はこう語る。「やはり行



空き家情報を発信している口和自治振興区のホームページ

移住者を受け入れ
地域が活性化

口和自治振興区が発信する情報を基に昨年4月、福島県いわき市から福元紀生さん奈津さん夫妻が移住した。福元さん夫妻は、空き家と使われなくなっていた牛舎を借り、ジャージー牛を放牧しながら、自家製チーズを製造・販売したりして生活している。乳しぼり体験やチーズ作り体験なども開催し、交流が生まれ、地域に新しい風が吹き込んでいる。



移住者の受け入れは
地域にとって大きな喜びに



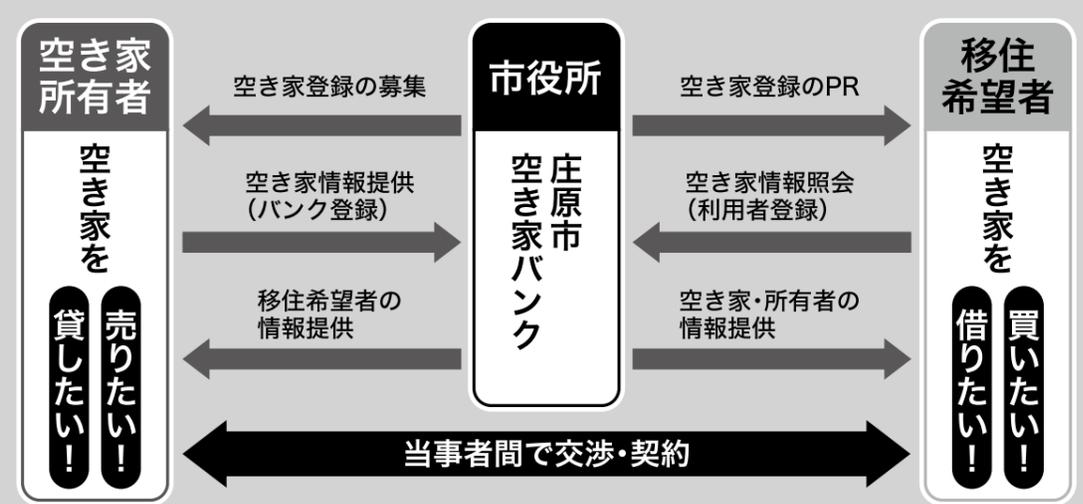
湯木自治会 会長
おおすぎ こうじ
大杉幸司 さん

若者が少ない湯木に若い人が来てくれると聞き喜びました。原発事故という悲しい状況があつての移住ではありませんが、地域の人もとても喜び、牛舎の屋根などの修理や放牧地の草刈りなど、さまざま面で協力しています。空き家を貸した方も喜ばれ、特に牛舎の貸主の方は1人暮らしということもあり、毎日家の前で福元さんと言葉を交わすことが楽しみだと言われています。また、そのことが見守りにもつながっています。



空き家バンクの仕組み

空き家バンクに登録するには物件の面積などの情報や、田畑などの付帯物件の情報、所有権の確認などが必要になります。まずは自治振興課または支所企画調整室にご相談ください。



市内で増加している空き家を有効活用し、移住希望者の住まい確保を支援する制度が「空き家バンク」。利用には登録が必要。賃貸借・売買共に情報が有り、ホームページでも公開中。



政の力が必要。もっと一緒に取組める体制を作る必要がある。今こそ協働のまちづくりが求められている。

老朽化する前に
空き家をどうするか
家族で検討を



口和自治振興区 区長
やまおか よしはる
山岡芳晴 さん

現在、手を加えれば住める空き家が100戸余りあり、便利のいい中心部に増えてきています。空き家になっている家は、育てた子どもが就学・就職などで町外へ出て、そのまま帰ってこない場合が多く、その後、親御さんが亡くなり空き家になるケースが多いです。そうした空き家を登録してもらえればいいのですが、益などに帰るといふ理由で、登録していただけないのが現状です。建物の状態が悪くなれば、買手や借り手がなくなるので、状態の良いうちに検討いただくことが必要です。ただ、少しずつですが空き家を手放したいという人も出てきていますので、空き家の3割減を目標に今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。

集う場所・つながる場所

定住を進めるには、定住した方の声は外せません。

何より市民の皆さんの声は欠かせません。

皆さんの思いや力を出し合い、誰もが「庄原大好き」と思えるふるさとを一緒につくりましょう。

しょうばら愛サミット 開催！

昨年度、本市にUターンした方を対象に、庄原の魅力などを話し合う「しょうばら愛サミット」を開催しました。

同じ市内で暮らしていても広い庄原市内では出会うことのない人同士の出会い、つながりの場となりました。

このつながりをさらに広げ、庄原に暮らす人や団体だからこそできる、庄原らしい、庄原でしかできない関係づくり、庄原の魅力アップにつなげていきたいと考えています。

本年度は4回程度開催する予定です。

私にもできるまちづくりの第一歩。ぜひ、ご参加ください。



本年度の
テーマは

庄原のいちばんづくり

「暮らしの安心」のいちばん・「にぎわいと活力」のいちばん・
「地域産業」のいちばん

- とき 8月31日(土)13時～16時
- ところ 庄原市ふれあいセンター 中会議室
- テーマ 「暮らしの安心」のいちばん
～子どもが安心して暮らせる環境づくり～
 - 昔はこんなこともやったよな
 - こんなものがあつたらいいのに
 - 私ならこんなことができますよ
 など、私にできることを話してつながる場です。
個人・団体・企業からの参加もお待ちしております！

しょうばら愛サミット 参加者アンケート

※今回のテーマは、昨年度の参加者の中から
メールによるアンケートを行い、
今回のテーマを決めました。

「暮らしの安心」といえば？

- 1位 子どもが安心して暮らせる環境づくり
- 2位 地域医療について

市民活動団体登録制度始めます！

市民の皆さんのチカラを生かしたまちづくりを進めるため、市内で活動している市民活動団体の情報を収集し、広く公開していきます。

★これから市民活動を始めようとする方のきっかけに！

★市民活動団体の組織強化に！

★団体間の連携、情報交流機会に！

■ 団体登録を行うと…

- ◎登録された情報を市ホームページなどに掲載し、広く公開します。
- ◎登録団体の活動促進に役立つ情報を提供します。
- ◎市民や公的機関からの問い合わせがあれば、登録事項を提供します。
- ◎登録団体が主催する行事などを市の施設を利用して掲示します。

※活動に支障をきたす場合はこの限りではありません。団体登録には要件があります。お問い合わせください。

問い合わせ 自治振興課まちづくり定住推進係 ☎0824-73-1257

あとがき

人口減は将来にわたる本市最大の課題です。「ここに住み、ここで育ち、ここに帰ってくる場所をしっかりと確保し、維持し、つくっておくことが何より大事」とは、山岡区長の言葉。私たち大人が子や孫の代に郷土を残す責任があります。人が地域を作ります。そのためには「庄原が好き」という住民がもっともっと増えること。ふるさとをしっかりと残していくためには、皆さんの声が必要です。ご意見ご感想をお待ちしています。